

# 風土記の丘の花だより 183

今、そしてこれから見られる植物（2023年4月29日）

毎日のように今季初の花が咲いているので、どれから紹介しようか本当に迷います。また、これをご覧になるころには、すでに散ってしまっているかもしれないので、掲載のタイミングをはかるのも苦労です。でも、楽しみにされている方もいらっしゃるののでできるだけタイムリーに紹介していきたいと思います。前置きがいささか長くなりました。すみません。



万葉植物園で「なんじゃもんじゃの木」が花を咲かせました。変な名前とお思いでしょうが、そんな名前があるわけもなく、本当の名前をヒトツバタゴといって、モクセイ科の木です。今、スマホでニュースを見ると「なんじゃもんじゃの花が満開」などとよく出ています。元々は分布のごく限られた木で、非常に珍しかったので、わけがわからずこんな名前を付けたのでしょうか。ですから、なんじゃもんじゃの木とよばれている別の木もあります。



同じく万葉植物園でギンランも咲きました。銀色ではありませんが、よく似た黄色のランをキンラン、白い方をギンランと名付けたのです。風土記にはどちらも咲きますが、ギンの方がキンよりも2週間ほど早いようです。清楚な野生ランということで、なかなかの人気者です。それで開花を心待ちにされていた方も少なくありませんでした。おかげさまで、みなさんが大切にしてくださり、このごろ私の知る限りでは、抜き去られることはなくなりました。みなさんの環境保全や自然保護に対する意識が高まってきているのだなと嬉しく思っています。ありがとうございます。



旧小早川家住宅の庭でアヤメがきれいに咲いています。この仲間にはよく似た種類が多くよく混同されます。特にカキツバタや園芸植物のイリス（アイリス）などとの見分けがややこしいのではないのでしょうか。アヤメの特徴は何といっても花びらの真ん中にある白と黄色です。そこに網目のような模様が掛かっています。ちなみに新池に咲いている黄色いキショウブはショウブと付いていますが、アヤメの仲間です。アマドコロの花があちこちに咲いています。前まではユリの仲間とされていましたが、今ではキジカクシ科に分類されています。地下茎を伸ばし増えるので、しばしば群生します。カクカクした茎を長く伸ばし、葉の付け根から筒状の花を2つほどずつ下むきに付けます。よく似ている花にナルコユリがありますが、茎は丸くてカクカクしません。また、花の数もたくさんです。風土記では私はまだ見たことはありませんが、どこかで見かけたら茎を触ってみてください。 松下



